

聖路加看護大学図書館

新沼 久美*

聖路加看護大学図書館

I. はじめに

聖路加看護大学（以下、本学）は東京都中央区の築地に、聖路加国際病院と隣接して建っています。看護の学部、修士・博士課程のみの単科大学・院のため、図書館の蔵書構成も看護の文献が中心です。聖路加国際病院とは法人が異なり、図書室も別に設置・運営されていますが、さまざまな形で協同して利用者サービスを行っています。

II. 利用者教育

本館の特色をご紹介するうえでまず挙げられるのが、様々な形で利用者教育に力を入れていることです。利用ガイドの作成・配布はもとより、館外でのはたらきかけを積極的に行っています。

各種データベースのガイダンスは、年に7回ほど開催しています。うち5回は聖路加国際病院と協力し、病院職員と学生・教職員の双方が参加できる形式にすることで、大学単独で行うより多くのリソースを利用者に紹介することができています。2010年度には病院の医師の協力を得て、臨床におけるEBM（N）の説明を試みたところ、大学の教員や院生からもとても好評でした。

また各学年の授業と連携し、その学年のニーズに応じた情報リテラシー教育を行っています。特に重点的に対象としているのが学部入学初年次生です。前期の必修授業で8週分の授業を図書館司書が担当します。例年初回の授業で、地下鉄サリン事件における聖路加国際病院の対応を伝える資料^{1) - 3)}を紹介します。なかでも図書館員の視点で書かれた資料は、緊急事態に際し医師から図書館に薬品の検索依頼が来たこと、各種データベースで検索し他機関から関連文献を取寄せたこと、入手した情報を逐次院内で共有したことなど、医療の現場で実際に文献が活用されている様子を臨場感があり、ついこのあいだまで高校生だった学生たちにも具体的なイメージ

が伝わります。授業後のアンケートでは、「学生時代だけでなく医療の現場でも文献を調べることが必要だということがわかった」「医療は医者だけでなく図書館など様々な人の協力のもとに成り立っていることがわかった」などの記述が見られ、看護師も情報収集能力が大切であり、卒業後も常に新しい医療情報を勉強していく能力を学生時代に身につけることが必要だということが伝わったという手ごたえがあります。

情報リテラシーを学ぶモチベーションを高めた後は、図書館の利用方法からはじめデータベースを活用した医療文献の探し方などを説明していきます。近年は情報の収集能力だけでなく共有する力を身につけてもらうため、課題について調べた内容をグループ発表したりWeb上で発信したりもしています。初年次に身に付けたこれらの知識を土台として、3年・4年次にも図書館員からの授業を行い、卒論作成に焦点をあてた文献利用方法の再確認を行っています。

III. 学術情報の発信

もう1つ近年取り組んでいるのがSLCN@rchive（本学の機関リポジトリ）を利用した学術情報発信です。2010年度から、大学として教育・研究活動の情報公開が義務付けられたことに伴い、これまで論文などの公開の場として運用してきたSLCN@rchive上に、教員の業績などもまとめて掲載し始めました。業績公開を促進するため、リポジトリソフトD-Spaceをカスタマイズして文献管理ソフトRefWorks上の蓄積データやリンクリゾルバ経由の文献情報を流しこむことができるようにしました。これは、教員自らが簡便に業績情報を更新できるようになり、情報公開が進むとともに図書館の作業負担軽減につながりました。同時に、博士論文の本文公開を促進するため図書委員会を通して研究科に働きかけ、博士論文は原則全文公開が義務づけられるようにしました。これまでどちらかというと図書館独自の業務として位置づけられてきたリポジトリ運用ですが、大学全体の

*Kumi HIINUMA：〒104-0044 東京都中央区明石町10-1.
(2011年6月1日 受理)



学術情報発信の場として活用していく機運が全学に広まりつつあるところです。

Ⅳ. ラーニングコモンズとしての機能

今後取り組むべき課題としては、学習の場としての環境整備を検討しています。館内の設置PC台数は年々増加し、全85席の閲覧席のうち20席にPCが備え付けられています。学内には他に学生が自由に使用できるPCルームがありますが、資料がすぐ手に取れる環境や学生ラウンジと同じフロアに位置していることなどから図書館のPCを利用してレポート作成などの作業をする学生が多いようです。グループ学習に使用できるブースも3

部屋あり、そこで使用できるノートPC貸出サービスも積極的に利用されています。予約制で図書館司書に研究のための文献検索方法を相談できるサービスも受け付けていて、院生を中心に利用が広がっています。相談内容としては、個人やグループを対象にデータベースの使い方説明からキーワード設定の妥当性や研究アプローチ方法のアドバイスなどを行っています。ラーニングコモンズとしてはまだまだ未整備ですが、今ある資源（蔵書、設備、人材）を利用者にフルに活用してもらえるよう働きかけています。

Ⅴ. おわりに

本学は2010年度途中から日本医学図書館協会に機関会員として加盟しました。小規模な看護の単科大ではありますが、今後はJMLAのネットワークを活かしたさらなるサービス充実をはかっていきたいと思っています。

引用文献

- 1) NHK. 地下鉄サリン：救急医療チーム最後の決断 [DVD]. 東京：NHKエンタープライズ；2006.
- 2) 奥村徹. 緊急招集（スタット・コール）：地下鉄サリン，救急医は見た. 東京：河出書房新社；1999.
- 3) 河合富士美，及川はるみ. サリン事件を経験して. 医学図書館. 1995;42(2):121-2.

